

【第 12 期、第 13 期、第 14 期 事業報告】

第 14 期 事業実績報告と、現在までの経緯(第 12 期、第 13 期)と今後の事業方針

I. 第 12 期～第 14 期の売上、経常利益、純資産、総資産

回次	第 12 期 2019 年 6 月 1 日～ 2020 年 5 月 31 日	第 13 期 2020 年 6 月 1 日～ 2021 年 5 月 31 日	第 14 期 2021 年 6 月 1 日～ 2022 年 5 月 31 日
決算年月	令和 2 年 5 月	令和 3 年 5 月	令和 4 年 5 月
売上高 (千円)	10,934	17,315	37,805
経常利益 (千円)	-4,805	2,548	16,535
純資産額 (千円)	4,858	7,227	20,926
総資産額 (千円)	5,168	8,555	35,394

【概観】

1. 第 12 期下期は、コロナ禍の影響を受けて、自社の主要事業である調査研究事業、ソリューション事業、研修事業のすべてにおいて停滞した。

2. 第 13 期から回復および新規事業の獲得

1) 「未来戦略デザイン 事業部門」:

・IPA (情報処理振興機構) の「サイバーセキュリティ中核的人材育成事業」を受託している名古屋工業大学からの事業委託

・事業委託の内容: 研修プログラムに対して、Hicon 側のインストラクショナルデザイン授業再設計、教材再設計、教授戦略の教育技術コンサルティング、および学習管理システムの技術サポート

3. 第 14 期は、大きく回復および新規事業の継続・成長を果たすことができた

1) 売上、経常利益、純資産、総資産のすべてを成長させることができた

2) 貢献が高かった事業:

① 「3. 未来戦略デザイン 事業部門」: 上記した IPA/名工大「サイバーセキュリティ中核的人材育成事業」の受注額が高くなったことと、高い収益率を維持できた

② 「4. ビジネスソリューション」: 博進堂を協同ビジネスパートナーとして、文昌堂における記念社史の企画・編集・編纂の新規事業を開拓し、高い収益額を確保できた

3) 特筆事項: 純資産に関連して、資本金 1,600 万円の回復を果たし、累損を解消できた

4. 今後の事業方針

1) 上記 3 に示した、第 14 期に示した売上および経常利益の安定的な確保と、新たな事業開拓を果せるパートナーとの戦略提携と、それに基づく顧客創造を果たしていける素地が整ってきた

2) 参考として、次期第 15 期における新規事業の獲得について示す:

「5. SDGs アカデミア事業部門」

・『Mint システムワークフロー実行手順コンテンツ等の開発』

・国立研究開発法人物質・材料研究機構における本事業に対して、佐久田博司名誉教授およびその他研究員の事業活動を、青山 Hicon が事務局役としてサポート

以上